

CLIP STUDIO PAINT PRO/EX クリップスタジオペイント



初心者入門編

□ 名称未設定 □

By 摩耶薫子

クリスタ

ビギナーズ



~Ver.1.2.9RC

PDF版サンプル
ゴーゴー!

クリップスタジオペイント

ビギナーズ・ア・ゴー・ゴー!

- 1 : はじめに筆圧の調整
- 2 : ツールアイコンが見つからない?
- 3 : キャンバス新規作成
- 4 : 基本表現色とレイヤーの種類
- 5 : 基本表現色の変更
- 6 : 漫画原稿設定
- 7 : アナログ原稿のスキャンとごみ取り
- 8 : 下描きレイヤー・参照レイヤー
- 9 : 万能ツール「オブジェクト」
- 10 : 塗りつぶし・自動選択・囲って塗る
- 11 : 選択ペンとクイックマスク
- 12 : ツールの設定とカスタマイズ
- 13 : 枠線の引き方
- 14 : テンプレート登録
- 15 : 「トーン」とレイヤー効果
- 16 : トーン貼りとレイヤーマスク
- 17 : 模様トーンの手操作
- 18 : グラデーション
- 19 : 定規いろいろ
- 20 : テキストとフキダシ
- 21 : 保存(書き出し)
- 22 : 「用紙」と透明部分の表示
- 23 : コマンドバーのカスタマイズ
- 24 : 自動バックアップ
- 25 : 正規版Version1.3.0の新機能

□ 名称未設定 □
By 摩耶薫子

発行:あーぱー商会。



項目をクリックすると該当ページへジャンプします

1：はじめに筆圧の調整	6
2：ツールアイコンが見つからない？	8
3：キャンバス新規作成	13
4：基本表現色とレイヤーの種類	14
5：基本表現色の変更	18
6：漫画原稿設定	19
7：アナログ原稿のスキャンとごみ取り	23
8：下描きレイヤー・参照レイヤー	31
9：万能ツール「オブジェクト」	34
10：塗りつぶし・自動選択・囲って塗る	36
11：選択ペンとクイックマスク	41
12：ツールの設定とカスタマイズ	43
13：枠線の引き方	45
14：テンプレート登録	54
15：「トーン」とレイヤー効果	56
16：トーン貼りとレイヤーマスク	65
17：模様トーンの操作	71
18：グラデーション	76
19：定規いろいろ	79
20：テキストとフキダシ	85
21：保存（書き出し）	97
22：「用紙」と透明部分の表示	108
23：コマンドバーのカスタマイズ	110
24：自動バックアップ	113
25：正規版 Version1.3.0 の新機能	115
索引	120

4：基本表現色とレイヤーの種類

キャンバスの「基本表現色」には「カラー」「グレー」「モノクロ」がありますが、これはPhotoshopなどの「ファイルモード」とは違うと前述しました。

どう違うかといいますと、例えばPhotoshopのグレースケールモードでは、フルカラーを扱うことはできません。例え一箇所でもグレーでない色の部分が欲しい場合は、ファイルのカラーモードを「RGB」あるいは「CMYK」というフルカラーが扱えるモードに変更する必要があります。

クリスタの場合は、そのキャンバスの「基本表現色」が「グレー」や「モノクロ」のままで、フルカラーの部分を含めることができます。もっとも、レイヤーの作成や書き出しの時にトラブルや意図しないデータになる可能性もありますので、やっぱり**描きたい絵の表現色と「基本表現色」は揃えた方がいい**のですが、たとえば「モノクロ」の基本表現色で描いているキャンバスで「ここはグレー階調を使いたい」ということも「基本表現色」を変更せずにできます。

コミスタを使っていた方はお分かりだと思いますが、クリスタもコミスタと同様に**カラーのモードはレイヤーごとに管理**しています。（ただし、クリスタはコミスタのようにレイヤーごとに解像度を変えることはできません）

「基本表現色」がカラーのキャンバスでも、「グレー」にしか描けないレイヤーや「モノクロ2階調」にしか描けないレイヤーというものが作成できるわけです。

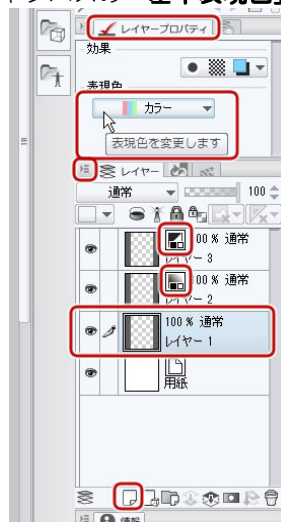
レイヤーの表現色は、レイヤーパレット下部の「新規ラスタレイヤー」アイコンを押して新規レイヤーを作成した場合は、そのキャンバスの「基本表現色」と**同じもの**が作成されます。

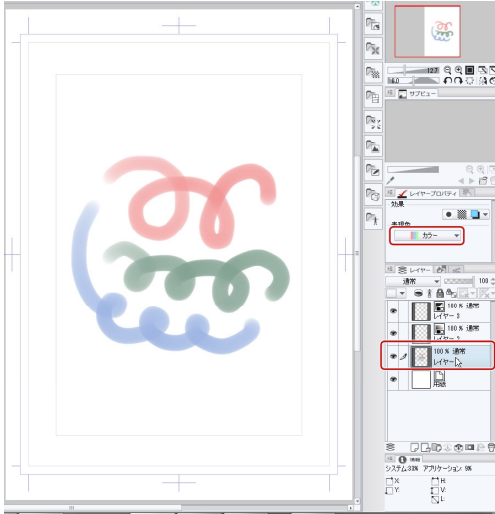
レイヤーパレット左上のメニューの「新規ラスタレイヤー」を選択した場合は、作成時にそのレイヤーの表現色を設定することができますが、レイヤーの表現色はその後もいつでも変更できます。

そのレイヤーの表現色は、レイヤーパレットを見るか該当レイヤーを選択して「レイヤープロパティ」を見れば解ります。

レイヤーパレットでは、**そのキャンバスの基本表現色と同じ表現色のレイヤーには表現色アイコンが付きませんが**、基本表現色と違うレイヤーには、どの表現色のレイヤーなのかの**アイコンが表示**されます。

この画像の場合、キャンバスの基本表現色がカラー





なので「カラー」のレイヤーにはアイコンがなく、その上の「グレー」のレイヤーと「モノクロ」のレイヤーには**表現色アイコン**がついています。

レイヤーの表現色は「レイヤープロパティ」の「表現色」の所で変更することができます。

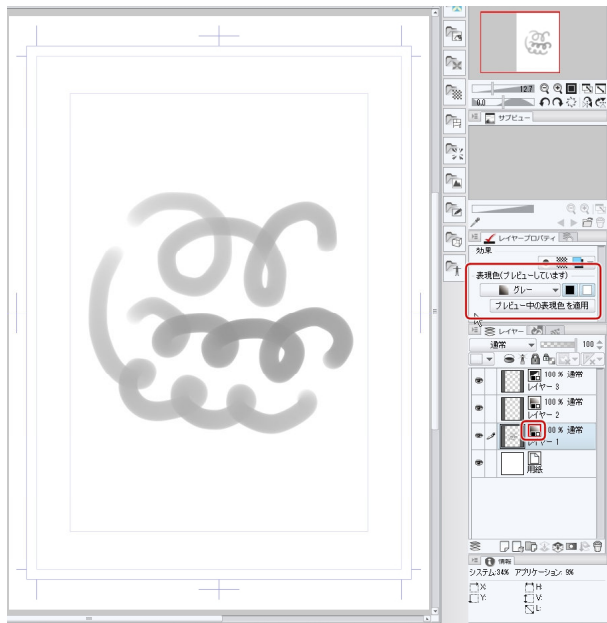
これは、何も描いてないうちはもちろん、レイヤーに描画部分がある場合でも変更がききます。

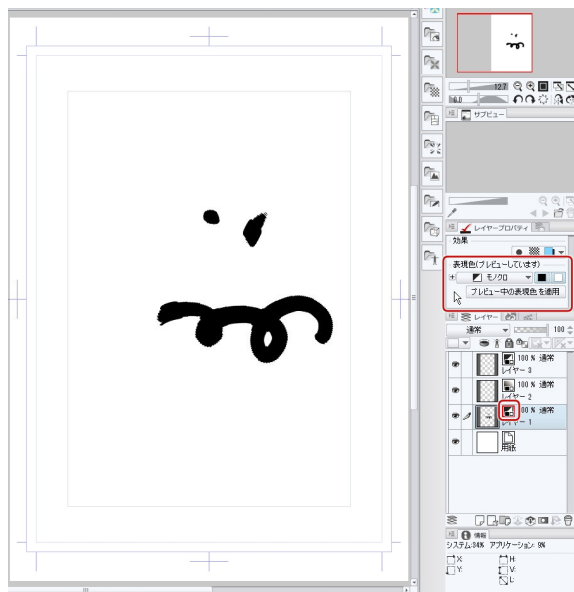
グレー画像ではちょっと解りにくいかとは思いますが(笑)、ために「カラー」のレイヤーに何色

か色を使って描いてみてください。この時、アンチエイリアスやボカシのある筆などを使った方が、レイヤーの特性が解りやすいかと思います。

レイヤー表現色を「グレー」に変更してみました。この画像ではちょっと解りにくいとは思いますが、レイヤープロパティでの表示が変わり、レイヤーパレットにも表現色アイコンが表示されています。なお、表現色アイコンは今赤い枠で囲まれていると思いますが、これは「表現色を変更してプレビューしていますよ」という意味です。レイヤープロパティにも**「プレビューしています」と**出ています。

「プレビュー」ということは、この表現色はまだ**「確定していない」と**いうことです。この状態ならば、レイヤープロパティでまた「カラー」に戻せばまた色が戻ってきます。





同じレイヤーを「モノクロ」にしてみるとこんなふうにグレーの階調がまったくなくなって、一部だけ真っ黒で描画されます。

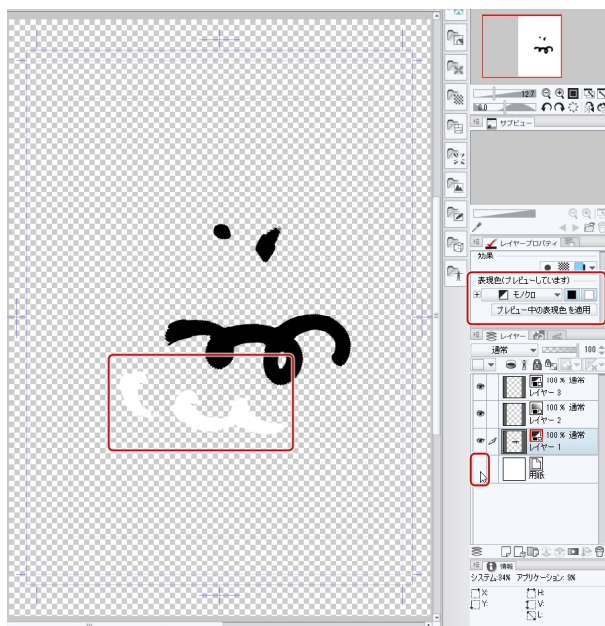
この表現色モノクロのレイヤーは、一切の色の階調は描画できず、何色で描いても「黒」か「白」になります。

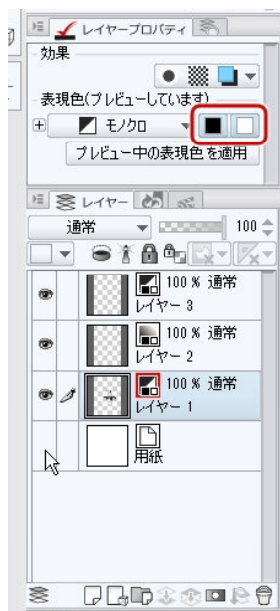
アンチエイリアスのかかったツールで描いても**必ず2 階調化**されるので、モノクロ二値原稿を描きたい場合は表現色をモノクロにすれば、うっかりグレーで描いてしまったりとかアンチ

エイリアスがかかってしまった、というトラブルを防げるわけです。

「用紙」レイヤーを非表示にしてみると、透明部分が表示されますので「白」で描かれた部分も確認することができます。表現色「モノクロ」のレイヤーの場合、色によって「黒」か「白」かに描画されます。これは元の色の輝度で分けているようです。まあ難しく考えなくても「だいたい黒」で描けば黒、「おおむね白」で描けばちゃんと白になります(笑)

また、元の描画部分の不透明度でも、ある程度以上の不透明度の部分は不透明度 100 %、それ以下の不透明度の部分は 0 % (つまり描画されない) というふうに分けられるようです。





よく見ると「表現色」の横に「黒」と「白」のアイコンがあります。これは、「このレイヤーでは黒と白を使います」という意味です。デフォルトでは両方オンになっている状態です。

このどちらかをオフにすると「黒でしか描けないレイヤー」や「白でしか描けないレイヤー」にすることもできます。

このアイコンは「グレー」に変更したレイヤーのプロパティにもついています。

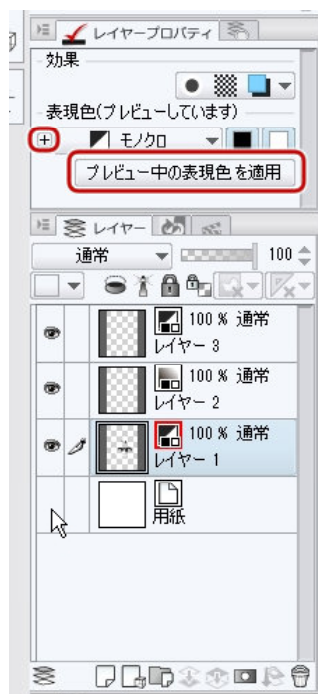
表現色「グレー」のレイヤーの場合は、ここのアイコンのどちらかをオフにすると、**色の不透明度で表現するグレー**にもすることができます。コミスタの「グレーレイヤー」と同じ方法でのグレー描画ができるわけです。両方がオンになっている場合は、グレーの色味と不透明度は無関係ですので、コミスタのグレーレイヤーではできなかった「不透明度 100 %グレー濃度 10 %」という描画も可能なわけです。

このあたりは、まだ触り始めの時はよく解らないかもしれませんが、とりあえず**ここのアイコンは触らないようにしている**といいかもしれません(笑)。もっとも、うっかり触ってしまったらその下の「**プレビュー中の表現色を適用**」を押さない限りは、いつでも元の状態に戻せます。

また、表現色設定のドロップボックスの左には「+」アイコンがあり、ここを開くと、どの色を黒にするか白にするかや、アルファ値（不透明度）がどの程度あれば描画させるかの設定を変更することもできますが、ここも**とりあえずは触らなくてもいいか**と思います(笑)

「**プレビュー中の表現色を適用**」を押すと、例えば元がカラーで描かれた部分も、現在表示されている変更したレイヤー表現色で**確定**します。

いったん確定させてしまうと、「やり直し（アンドゥ）」以外では(笑)、元の状態には戻せませんのでご注意ください。



22 : 「用紙」と透明部分の表示

「用紙」レイヤーというのは、クリスタ独自の特殊なレイヤーで、必ずレイヤーの一番下に置かれています。

「用紙」は 1 つのキャンパスに一枚しか持てません。また、この「用紙」には描き込むこともマスクなどをかけることもできません。

ただ、この「用紙」色を変更することはできます。レイヤーパレットのサムネイルをダブルクリックすると色の設定ウィンドウがでますので、ここで好きな色の用紙にすることができます。



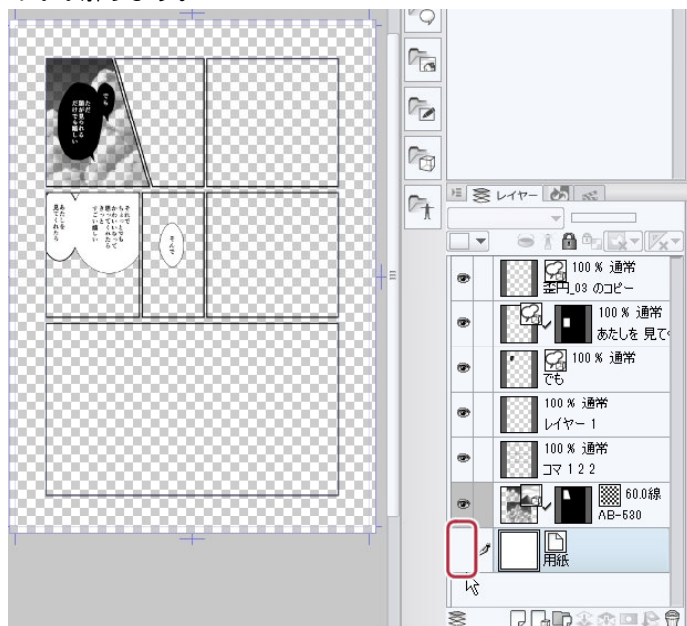
できませんが**表示を切る**ことはできます。

「用紙」表示を切ると、その上に乗っているレイヤーのどこが透明でどこが白なのかが解ります。



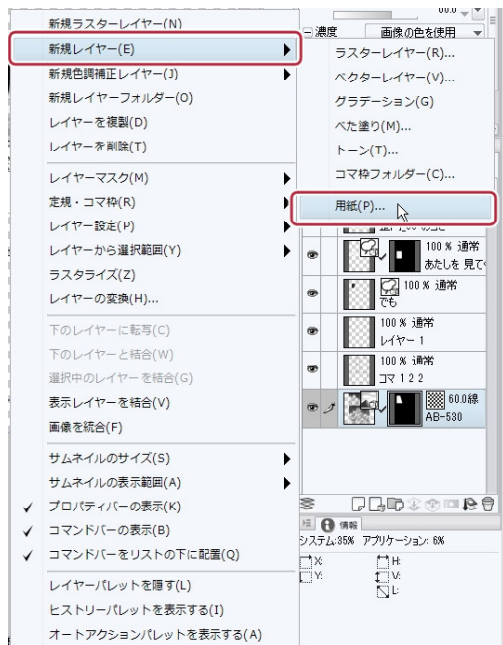
モノクロ原稿の時はもちろん「白」でいいんですが、カラーイラストなどを描く時には、色地に描いてみるのも面白いんじゃないかと思います。

「用紙」レイヤーは、ほとんどの操作がで



ただ、「用紙」はキャンパスに必ず必要というわけではなく、捨てることもできます。

Photoshop 形式や、PNG、JPEG など、他形式のファイルをクリスタで読み込んだ場合も、用紙というのはついていません。



「用紙」は、キャンパス新規作成の時 (P.13) にも、含めるかどうかや用紙色を設定できますが、**用紙のないキャンパスなら、いつでも「用紙」を新規作成することもできます。**

レイヤーパレット左上メニューから「新規レイヤー」→「用紙」です。

このメニューは、キャンパスに「用紙」がある場合はグレイアウトしています。

必ず一番下にある特殊なレイヤーということで、Photoshop の「背景」のような感じもしますが、Photoshop の「背景」は「描画することはできるが、表示が切れない」というものですので、ちょっと違います。

そして、「用紙」のあるクリスタファイルを PSD 形式に書き出しても「用紙」が「背景」になるわけでは**ありません**。

Photoshop 上では、「用紙」レイヤーも普通のレイヤーに白などが塗りつぶされているだけのレイヤーになっています。

クリスタからは、レイヤーありの PSD 形式に書き出しても、一番下のレイヤーを「背景」にすることは**できません**ので、ご注意ください。

クリスタで読み込んだ PSD の「背景」レイヤーも「用紙」ではありません。

摩耶薫子（まやかおるこ）

(Twitter k_maya)

デジタルコミック歴は、仕上げのみデジタルに移行したのが2001.08頃から、オールデジタルに移行したのが2003.11頃からです。

コミスタ歴は、2が出た頃に購入。ネーム、下描き、ペン入れまでの作業でしたが、3が出て、仕上げの最後まで、すべてコミスタで作業するようになりました。

アナログ時代を含めて、漫画描き歴は相当長い、とだけ申し上げておきます。現在は、パソコンで漫画を描いたり、パソコンで人様の漫画に背景を描いたりして暮らしております。

2013年現在は、3Dレンダリングなど一部の機能はまだコミスタ使用ですが、ほぼクリスタに移行しつつあります。

■ メインマシン（2013.11現在）

Windows7

Intel Core i7-2600 CPU 3.40GHz 64bit
メモリ 12GB HDD 内蔵 1TB

■ モニタ

22inch ワイド液晶

(MITSUBISHI Diamondcrysta RDT222WM)

解像度 1680*1050

■ Intuos4 Small (PTK-440)

(一番小さいサイズのもの)

フェルト替芯使用

(Intuos3、4用の替え芯ですが)

Intuos、Intuos2でも使えます)

■ USB 接続 超小型ゲームパッド ST-A1

「NSテクノロジーダイレクト」

<http://www.ns-technology.co.jp/>

(ショートカットキー登録)

主な使用アプリ

■ **ComicStudio 4 EX** (Windows版)

■ Photoshop7.0.1

■ **CLIP STUDIO PAINT EX** (Windows版)

セルシス公式サイト CLIP STUDIO.NET

<http://www.clipstudio.net/>

PDF版サンプル

発行日：2013.12.30

PDF版作成：2014.01.03

発行元：あーぱー商会。

連絡先：

181-0004

東京都三鷹新川郵便局留

堀川むつみ 摩耶薫子

『名称未設定』

<http://www.tgweb.net/~ahpah/meishou/>

a-pa-co@excite.co.jp

(冊子版印刷) 印刷所：緑陽社

<http://www.ryokuyou.co.jp/>

本書の内容を、無断で複製や転載
ファイルに落とすこと等は禁止します。
本書は、摩耶薫子が個人で発行した同人誌です。
本書の内容に関する文責はすべて
摩耶薫子個人にあり
セルシスとは無関係です。